

令和6年度 タウンミーティング (第22回)

「吉野川・シン川北エリア活動バザール、人とつながろう!」

開催主旨

■近年、市民・行政・企業等による様々な活動が誕生している吉野川・川北エリアにおける、諸活動の各関係者が出会い、それぞれの活動情報を共有することで、未来の可能性を考える。

開催日：令和6年7月20日（土）
場 所：徳島大学フューチャーセンター A.BA
（徳島市南常三島町1丁目1番地）
主 催：徳島大学人と地域共創センター

内容

- (1) 開催挨拶
徳島大学人と地域共創センター
客員教授 澤田 俊明
- (2) 趣旨説明
徳島大学人と地域共創センター
兼務教員 豊田 哲也
- (3) 活動情報バザール
「各関係者による活動情報共有」
阿波切保存研究会・代表 前田 亞矢
もやい舎・代表 藤井 隆行
徳島県建築士会、(特非)とくしま山・すまい・
まちネット理事長 林 茂樹
花れんこん 齋藤 彰 ほか
- (4) ワークショップ：えんたくん活動バザール
「質問、つながりたい活動について」
- (5) コメント・統括
徳島大学人と地域共創センター
副センター長 山中 英生

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で22回目となった。

吉野川下流域から海岸付近、吉野川と讃岐山脈に囲まれたエリアは、吉野川・川北エリアと呼ばれてきた。近年、吉野川・川北エリアでは行政・企業等による様々な活動が誕生している。

今年度のタウンミーティングは、吉野川・川北エリアの諸活動の各関係者が出会い、それぞれの活動情報を共有し、未来の可能性を描く新たなつながりの場とすることを目的に開催された。

行事には地域住民や関係者等の約32名が参加。まず、各関係者が吉野川・川北エリアにおける諸活動（土壁ササ、レンコン、鳴門らっきょ、コウノトリ、CSA、農地の地域計画、サイクルツーリズム、周遊船、廃校活用、海釣り、

かわまちづくり、サポート支援、DMO活動等）について、報告を行った。関係者間で現状の活動状況を共有することができた。続いて、「えんたくん」と呼ばれるコミュニケーションツールを用いたワークショップが行われた。参加者同士がひざを突き合わせ、つながりたい活動についての活発な意見交換や質問がなされた。参加者同士が協力してえんたくんを支える体験も相まって、より深い対話が生み出されることとなった。

今回のタウンミーティングの開催により、関係者及び参加者との交流を深めることができ、吉野川・川北エリアにおける未来の可能性を探る良い機会となった。



タウンミーティングの様子



チラシ

グラフィックレコーディング

令和6年度 徳島大学地域交流シンポジウム (第21回)

「とくしまボイス ～被災地から未災地へ～」

開催主旨

■阪神・淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震の3つの震災教訓について学び、来るべき南海トラフ地震への備えについて考える。

開催日：令和7年3月2日（日）
場 所：徳島大学フューチャーセンター A.BA
（徳島市南常三島町1丁目1番地）
オンライン同時開催（Zoom 使用）

主 催：徳島大学人と地域共創センター、
徳島大学環境防災研究センター

後 援：徳島県

内容

- (1) 開会挨拶
徳島大学人と地域共創センター
センター長 田中 俊夫
- (2) 第1部 基調講演「被災地から」
テーマ「過去の震災教訓から学ぶ」
【コーディネーター】
徳島大学人と地域共創センター 特任助教 井若 和久
【登壇者】
近畿災害対策まちづくり支援機構 弁護士 津久井 進
和歌山信愛大学/
認定 NPO 法人まち・コミュニケーション 宮定 章
みやぎボイス連絡協議会 建築士 手島 浩之
元宮城県サポートセンター支援事務所
社会福祉士 真壁 さおり
NPO 法人 YNF 江崎 太郎
能登町復興推進課/和歌山県海南市総務部 上田 知史
- (3) 第2部 グループディスカッション「未災地へ」
テーマ「来るべき南海トラフ地震への備え」
【コーディネーター】
徳島大学環境防災研究センター 副センター長 上月 康則
【登壇者】
鳴門市危機管理局 黒濱 綾子
徳島県社会福祉協議会 山田 信人
弁護士・防災士 堀井 秀知
有限会社内野設計 建築士 内野 輝明
阿南防災士の会 青木 正繁
徳島市立国府中学校 中山 直之

地域交流シンポジウムは、本学が地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として実施しているもので、今回で21回の開催となった。

第1部の基調講演「被災地から」では、「過去の震災教訓から学ぶ」をテーマに、阪神・淡路大震災、東日本大震災、

能登半島地震の3つの震災の被災者・支援者から2名ずつご登壇いただき、各震災の教訓について、徳島県内外の参加者とそのボイス（声）に耳を傾けた。

第2部のグループディスカッション「未災地へ」では、「来るべき南海トラフ地震への備え」をテーマに、【フェイズフリー】【地域福祉】【生活再建・土業連携】【建築・まちづくり】【FCP・地域防災】【学校防災・防災教育】の6つのグループに分かれ、徳島県内の各分野の実践者・支援者と参加者としてボイス（意見）を交わしながら、来るべき南海トラフ地震への備えについて考えた。

シンポジウムには、徳島県内外から82名の参加があった。



ポスター



シンポジウムの様子

「徳島大学・明治大学・徳島県連携事業」

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業代表者・連絡先

藤本 真路 (地域連携戦略室長、理事(地域・産官学連携担当)、副学長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

2. 事業の取組状況

第11回目となる連携事業は、本学が主担当となり、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として、令和6年11月16日(土)にオープン講座「健康寿命の延伸を実現するために」を明治大学駿河台キャンパスアカデミーホールで開催し、80名が受講した。

日本人の平均寿命は、2019年で男性81.41歳、女性87.45歳であり、年々延びている。一方、健康状態で生活することが期待される年齢を表す「健康寿命」は、男性72.68歳、女性75.38歳であり、その差である不健康な期間は、それぞれ男性8.73年、女性12.07年である。その不健康期間を短くすることが「健康寿命の延伸」であり、その実現のために、医学の立場から加齢によって起こる身体の変化や疾病、そこから派生する個人・社会の課題を知り、その解決の重要な手段として健康運動について考えることが重要となる。

今回の連携講座では、医学及び運動の各分野における有識者3名から講演いただいた。

最初に、徳島大学大学院医歯薬学研究部公衆衛生学分野の森岡久尚教授から、「健康寿命の延伸の実現に向けて」と題して、日本の健康寿命の特徴や健康寿命の要因等について、先行調査等の統計を用いて医学的な視点からの講演をいただいた。

次に、徳島大学人と地域共創センターの田中俊夫センター長から、「健康寿命を延ばす運動プログラム」と題して、身体活動や運動に関する具体的な実践方法等について、四国遍路や阿波踊りといった徳島の文化も踏まえた観点で講演をいただいた。

続いて、明治大学文学部の宮脇梨奈専任講師から、「健康寿命の延伸を実現するために～座りすぎにはご注意ください～」と題し、座位行動に特化した視点で、健康との関連について講演いただいた。

3人の講演後、田中センター長と阿波おどり体操サポーターによる「阿波おどり体操」の実演を参加者と共に行った後、講演者3名によるパネルディスカッションを行い、それぞれの専門的観点による議論が行われた。参加者からも多数の質問があり、健康寿命に関する意識の高さが伺える内容となり、講座は盛況に終わった。

3. 今後の展開

本連携事業は、本学と徳島県が交互に開催を担当しており、今後も各機関が持つ教育資源を活用した各種講座の開催などを通じて、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業の実施を継続予定である。



連携講座の様子